

泌尿器科臨床研修プログラム

研修の到達目標

外科系医師として一般的知識・技術の上に、泌尿器科医師として基礎的知識・技術の習得の努め、チーム医療の中で自立的に実践できるようにする。

泌尿器科研修中に身につけるべき資質・能力 【技能・問題解決・解釈・態度】

1. 尿路、男性生殖器の解剖。生理を説明できる。
2. 基本的な泌尿器科的診察を正確に行うことができる。
3. 外来患者の診療を指導医のもと実践し、適切な処置、必要な検査を実施することができる。
4. 泌尿器科手術の助手ができる。指導医のもと小手術（環状切除術、陰嚢水腫根治術他）を安全に実施できる。
5. チーム医療の一員として、入院患者の術前、術後管理を実施できる。
6. カンファレンスにおいて症例提示ができる。

研修方略

On the job training (ON-JT)

（6週の研修期間）

1. 病棟で入院患者の診療を担当し、日々の診療記録を作成する（退院サマリーを含む）
2. 担当患者の病状や治療方針を説明、検討する。
3. 外来で初診患者の病歴聴取、身体診察を行う。
4. 外来超音波検査で、前立腺推定重量、残尿検査を行う。
5. 指導医のもとで内視鏡検査（硬性・軟性膀胱鏡）を行う。
6. 指導医とともに手術に参加する。
7. 指導医とともに日々の振り返りを行う。

（12週の研修の場合追加される項目）

1. 指導医のもと経直腸的前立腺生検を行う。
2. 経尿道的手術を、一部術者として行う。
3. 泌尿器科小手術（環状切除術等）を術者として行う。

Off the job training (Off-JT)

- 1 適切な症例があった場合、学会（日本泌尿器科地方会など）で症例報告を行う。
- 2 スキルアップのための講習会、勉強会に積極的に参加する。

週間予定表

	月	火	水	木	金	任意
午前	病棟回診 外来診察 前立腺生検	病棟回診 外来診察	病棟回診 外来診察 前立腺生検	病棟回診 外来診察	病棟回診 外来診察	
午後	手術	内視鏡検査	手術	手術	内視鏡検査 ESWL	
夕方	一日の振り返り 病棟回診	一日の振り返り 病棟回診	一日の振り返り 病棟回診	一日の振り返り 病棟回診	病棟カンファレンス 病棟回診	

評価

研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

- 1 週間予定表に示した On-JT のさまざまな経験の場で、SBO の達成状況について、指導医、上級医、指導者による形成的評価を行う（週間予定表の各方略の項に示された数字が、対応する SBO の番号となる）。
- 2 OMP、一日の振り返り、SEA が中心的なフィードバックの機会となるが、それ以外の場でも、適宜指導医、上級医、指導者による形成的評価が行われる（指導医による診療録のチェックなど）。
- 3 一日の振り返り、SEA は、研修医自身の振り返り（省察）の場としても用いる。

研修後の評価

研修医に対する形成的評価

- 1 研修終了後に EPOC2 に研修医が入力した自己評価を元に、指導医、上級医が評価する。メディカルスタッフは現場評価表を用いて評価を記載する。
- 2 1.の評価表を集約して、責任指導医が EPOC2 で研修医評価表 I、II、III に達成度評価を記載する。
- 3 経験すべき症候、疾病・病態については、研修中に作成された病歴要約について、指導医は考察も含めてその内容を確認し、十分な経験がなされたと判断した場合は、EPOC2 で承認をする。内容が不十分な場合は修正を求める。
- 4 1-3 はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
- 5 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

指導医、研修プログラムに対する形成的評価

- 1 研修終了後に、研修医は EPOC2 上で、メディカルスタッフは指導医に対する評価表を用いて評価を記入する。
- 2 1.はプログラム責任者に提出され、臨床研修管理委員会などの場でフィードバックが行われ、指導医の指導状況と研修プログラムの改善のために活用される。

総括的評価

泌尿器科研修では、総括的評価は行われたい。

2 年間の研修修了時に臨床研修管理委員会が修了判定の総括的評価を行うが、泌尿器科研修の形成的評価もその材料となる。

泌尿器科が学修の場として適している、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

経験すべき症候

発熱、腹痛、腰・背部痛、排尿障害（尿失禁・排尿困難）

経験すべき疾病・病態

腎盂腎炎、尿路結石、腎不全

指導体制

研修責任者

飯田裕朗

指導医

飯田裕朗

上級医

菱川裕一郎